

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2018年2月23日
第5号（通算第11号）
教育指導課教育課程係

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して

■ 仙台市立高砂小学校（授業研究・講話）宮城教育大学教職大学院 吉村 敏之 教授

1月23日（火）に、仙台市立高砂小学校（佐々 孝 校長）を会場として授業研究・研修会を行いました。中村 紀子 教諭が1年生活科、三浦 早紀子 教諭が4年理科、糟谷 浩司 教諭が5年道徳の授業を公開し検討会を行いました。その後、講師の宮城教育大学教職大学院の吉村 敏之 教授から「深い学びの成立する授業 林竹二の思想を踏まえて」をテーマに、次のような御講話をいただきました。

○授業とは、子どもたちが、自分だけでは、決して到達できない高みにまで、自分の手や足をつかってよじのぼっていくのを助ける仕事であり、「深い学び」の成立に向けて、授業が成立するとはどういうことか、子どもが「学ぶ」とはどういうことか、「授業」を基に根本から考えることが大切である。



参会者からは「学び合い、活発なグループでの話し合いを目指して学級経営を実践していきたいと感じた」「対話的な学びについて考えるきっかけとなった」などの感想が寄せられました。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

■ 仙台市立広瀬小学校（授業研究・講話）慶応義塾大学 鹿毛 雅治 教授

1月25日（木）、仙台市立広瀬小学校（眞壁 淳一 校長）を会場に、授業研究会を行いました。川島 瑞記 教諭が6年総合的な学習の時間の授業を行いました。広瀬小学校では、授業者と参観者が児童の具体的な姿で授業を振り返り、共有したり可視化したりすることにより教師の学びが深まるとの理由から、参観者が授業中の児童の表情や反応を写真におさめ、その画像を活用した授業検討会を行い、教師の児童を見取る力を高める取組を進めています。講師の慶応義塾大学教授鹿毛雅治教授から次のような指導助言をいただきました。

- 正解のない課題について、子供たちが知恵を絞って考え、そこから新たな問いが生まれる。答えのない授業展開こそが本物の問題解決である。
- 授業に学びの深まりがあったか、多角的で多様な視点から授業の中の事実を丹念に振り返ることが大切である。



参会者からは、「主体的・対話的な学びを実現していくうえで、一人一人の児童の発言や考えを丁寧に取り上げることが大切だと感じた」「子どもの思いや願いをしっかりと受けとめることができるように日々の授業を大切にしていきたいと思った」などの感想が寄せられました。

【平成29年度 今後の公開研究会予定】

2月27日（火） 仙台市立南光台中学校 授業公開 （1年数学 2年国語）

参加希望者は
教育指導課へ
お申し込みください。